

2026 年 7 月 23 日

安全データシート

1 製品及び会社情報

<製品>

製品名: ダストレス耐水性チョーク 白・赤・黄 TDCT-W、R、Y

<会社情報>

社名:トラスコ中山株式会社

住所:〒105-0004 東京都港区新橋 4 丁目 28 番 1 号

電話番号:0120-509-849

FAX 番号:0120-509-839

2 危険有害性の要約

物理化学的危険性

爆発物	分類対象外
可燃性／引火性ガス	分類対象外
エアゾール	分類対象外
支燃性／酸化性ガス	分類対象外
高圧ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	区分外
自己反応性化学品	区分外
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	区分外
自己発熱性化学品	区分外
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類できない
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない

健康有害性

急性毒性	区分外
皮膚刺激性	分類できない
眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性／または皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
吸引性呼吸器有毒性	分類できない
水性環境有毒性	分類できない

3 組成及び成分情報

組成

原材料名	CAS#	配合割合(%)
炭酸カルシウム(石灰石、ホタテ貝殻)	471-34-1	> 90
粘土	非公開	非公開
分散剤	非公開	非公開
コーティング剤	非公開	非公開
顔料	非公開	非公開

4 応急措置

吸引した場合	粉じんを吸引した場合は空気の清浄な場所に移動する。異常があるときは医師の診察を受ける。
皮膚に付着した場合	清浄な水と石鹼で洗浄する。痛みや発疹などの異常がある場合は医師の診察を受ける。
眼に入った場合	コンタクトレンズを使用しているときは外し、清浄な水を数分間流して洗浄する。異常があるときは医師の診察を受ける。
飲み込んだ場合	多量の水を飲む。無理に吐かせない。医師の診察を受ける。

5 火災時の措置

適切な消火剤	粉末・炭酸ガス・泡・乾燥砂。
火災時の有害性	本品に特有の有害性は知られていない。
特有の消火方法	消火剤を使用して消火する。原則として水は使用しない。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項・保護具・緊急措置	「8 ばく露防止及び保護措置」に記載の保護具を着用し措置にあたる。
環境に対する注意事項	河川に流さない。多量の粉塵が出る場合は飛散しないようにする。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	河川等に流出するおそれのある場合は経路を封鎖する。粉塵が立たないように漏出物を掃除機・ほうき・スコップ等で回収し産業廃棄物として廃棄処理する。

7 取扱い及び保管上の注意

安全取扱注意事項	粉碎するなどして粉末化した場合は粉塵が立たないようにする。
混触禁止物質や容器包材等の保管条件	酸、酸性物質、高温体との接触を避ける。

8 ばく露防止及び保護措置

許容濃度	総粉塵 8mg/m ³ 、吸入性粉塵 2mg/m ³ (炭酸カルシウムとして、文献 1)
適切な保護具	筆記具として使用する際は取扱者の体質に合わせてチョークホルダー・手袋・マスクを使用する。多量に粉碎するなどして粉塵量が許容値を超えるおそれがある場合や作業者の健康に悪影響があると考えられる場合は、防塵マスク、保護手袋、保護メガネ、保護服、保護靴、保護帽を使用する。
ばく露を軽減するための設備対策	黒板拭きに付着したチョークの粉を落とすときは、専用のクリーナーを用いるか、換気の良い場所で行う。粉碎するなどして多量の粉塵が発生する場合は密閉化または排気装置を設置する。

9 物理的及び化学的性質

外観(物理的状态・形状・色など)	円柱状の固体
臭い	ほぼ無臭
pH	データなし
融点・凝固点	データなし
沸点・初留点・沸騰範囲	データなし

引火点	データなし
燃焼または爆発範囲の上限・下限	データなし
蒸気圧	データなし
比重(相対密度)	データなし
溶解度	ほとんど溶解しない
n-オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	825℃(炭酸カルシウムの分解温度)

10 安定性及び反応性

避けるべき条件	分解温度以上の過熱を避ける。分解温度に達すると分解して酸化カルシウムと二酸化炭素を生成するため。
混触危険物質	酸に接触させない。二酸化炭素を発生するため。
危険有害な分解生成物	酸化カルシウム(水に溶ける際に強く発熱する。水溶液は強アルカリ性を示す) 二酸化炭素(閉所で大量に生成すると窒息のおそれ)

11 有害性情報

急性毒性	本品の主原料である炭酸カルシウムのラット経口投与試験で $LD_{50} = 6,450\text{mg/kg}$ のデータがある(文献 2)。その他の原材料も急性毒性が区分外であることから、本品の急性毒性を区分外とした。
------	---

12 環境影響情報

現在のところ有用な情報はない。

13 廃棄上の注意

国や自治体の規則に従って廃棄すること。

14 輸送上の注意

国連分類	該当しない
海洋汚染物質	該当しない

15 適用法令

毒物及び劇物取扱法	該当しない
消防法	該当しない

PRTR 法

該当しない

16 その他の情報

JIS S 6009 に準ずる有害物質質量測定結果

成分名	基準値(ppm)	測定値(ppm)
アンチモン	60 以下	5 以下
ヒ素	25 以下	2 以下
バリウム	1000 以下	100 以下
カドミウム	75 以下	5 以下
クロム	60 以下	5 以下
鉛	90 以下	5 以下
水銀	60 以下	5 以下
セレン	500 以下	50 以下

参考文献

- (1)日本産業衛生学会「許容濃度等の勧告(2018 年度)」産業衛生学雑誌 60(5)、2018
- (2)食品安全委員会「添加物評価書 炭酸カルシウム」2016 年 9 月

この SDS は製品を取扱う事業者への情報提供を目的としており、したがって安全の証明書ではありません。また、内容の完全性を保証するものではありません。事業者は、記載された情報を参考にして、自らの責任において適切に取扱ってください。